

平成25年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	国際穀物理事会(IGC)分担金		担当部局庁	経済局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成7年度		担当課室	経済安全保障課		課長 内川 昭彦		
会計区分	一般会計		政策・施策名	基本目標 VII 分担金・拠出金 VII-2 国際機関を通じた経済及び社会分野に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法四条第三項 外務省組織令第六十八条第三項		関係する計画、通知等	1995年国際穀物協定の穀物貿易規約第21条				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際穀物協定は、穀物貿易にかかる国際協力を促進するための「穀物貿易規約」と途上国への食糧援助のための「食糧援助規約」の2つの法的文書から構成されており、国際穀物理事会(International Grains Council)は穀物貿易規約の運用機関。穀物の最大の輸入国である我が国にとって、同協定の下での協力は極めて重要。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	穀物の貿易に関する国際協力の促進、国際穀物市場の安定への寄与、穀物生産・消費・在庫・貿易等に関する情報交換の場の提供を行う。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	—	—	—	—	—	
		繰越し等	—	—	—	—	—	
		計	21	20	17	20	20	
	執行額	21	18	18				
	執行率(%)	97.7%	92.1%	101.4%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)
	穀物に関する情報(生産量、消費量、貿易量等)を時宜を得た形で加盟国及び購入者に提供していくことを通じ、国際穀物市場の安定に寄与していくことを目指す。			国・共同体(H25年度より主要定期報告書数)	27	26	26(220)	220
			達成度	%	100	100	100	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	穀物の貿易全ての側面について国際協力を促進すること、国際穀物市場の安定に寄与すること、穀物貿易に関する情報交換及び討議の場を提供することが協定に基づいて行われるための会議(注:我が国が出席する主な会議)数。			会議数/年	7	10	7	() ()
単位当たりコスト	2,526(千円/平成24年度)		算出根拠	会議数に対する日本の分担金額				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	その他	20	20					
	計	20	20					

事業所管部局による点検						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	我が国は穀物の約70%以上を海外からの輸入に依存しており、穀物市場及び貿易に関する情報を政府間で収集し、情報・意見交換することは、穀物の安定供給に向けた効果的な取組を確保する上で有益。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-	近年、事務局予算は名目ゼロ成長となっており、事務局は職員雇用の抑制等、支出抑制に努めている。また、IGC事務局長は、理事会において作業計画の承認を求め、予算執行報告及び年次報告を行うが、我が国を含む加盟国は、これらの議論を通じて、事務局に対して事業の効率化を求めている。他加盟国の分担金滞納状況等疑義ある点について、理事会等の場において指摘すること等により、事業の円滑な実施に努めている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	IGCの活動は穀物の市場及び貿易に関する情報提供機関として、国際場裡でも高く評価されている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)					
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	<p>IGCは、会計年度終了後に決算書及び事業実施報告書が作成されるため、我が国は、これらの内容を精査・把握し、これらを踏まえ、新規予算作成の段階において事業の効率化等を理事会等で主張することにより適正な予算管理に努めている。</p> <p>我が国は最大の食料純輸入国であり、穀物の大半を輸入に頼っているため、IGCへの加盟は引き続き有益。</p> <p>なお、効率的な事業執行を働きかけていくことにより、できる限り分担金負担の圧縮に努めていく。</p>					
外部有識者の所見						
-						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	日本の分担額・拠出額に応じて要求額を見直す。					
	所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
現状通り	-					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	56	平成23年	51	平成24年	77